

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	子どもの家療育クラブ		
○保護者評価実施期間	2025年12月1日		～ 2025年12月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	2025年12月1日		～ 2025年12月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	親子療育の取り組み・小集団の遊びを通じた療育	児童だけにアプローチするだけではなく、一番の理解者である保護者とともに療育に取り組む大切さを理念として掲げている。親子療育から始まり、少しずつ社会を広げていけるように子ども一人ひとりのペースに寄り添いながら、遊びや生活を通して一日一日が少しずつでも楽しいと感じられるような療育を目指している。	保護者の声としても、子育てや就学に関する横のつながり（保護者同士の交流）を求める声が多いため、情報提供や情報交換する場をより充実させていきたい。また、保護者支援については保護者発信によって随時対応することはできているものの、事業所として定期的な面談を実施するなどのアプローチが十分ではないことも再認識した。困り感や不安など、保護者から発信しにくい方もいらっしゃるため、こちらから相談できる場を設けられるように定期的な面談の実施などに努めていきたい。

2	専門職の配置（臨調心理士・公認心理師）	心理士を配置することにより、多職種による見立てが可能となりそれぞれの専門があることで厚みのある支援ができるよう努めている。	積極的な研修の受講等を通して、各職種の専門性の向上を図り、常にブラッシュアップできるよう取り組んでいきたい。
3	外部の専門職による来援指導	外部の専門職と連携を図り、定期的に心理士以外の理学療法士や作業療法士、言語聴覚士等の方々にお子様の見立てや適切な関わり等の指導を受けております。	この取り組みを引き続き行うとともに、職員の学びを深めより適切な支援に繋げていけるよう努めていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	人員体制の不足	保育士が中心の体制であるが、保育人材不足が社会問題となっており、年々人材確保・定着が困難を極め、深刻化している。	保育人材だけではなく、児童指導員や専門職などの人材にも積極的に目を向けてアプローチしていく等の工夫が必要。
2			
3			